

北朝鮮拉致

鹿児島市立坂元中学校

二年 山口 心結

「信じられない。」

そう思った。私と同じ中学生。私と同じように大切な家族や友達がいて。大切にしてくれる人達がいて。何気ない会話が一番楽しくて。それが一瞬にして壊された。名前も分からない人に。そう考えると、胸がぎゅゅとしめつけられた。同時に、学校に貼られているポスターを見ても他人事だと思って知らうとした。かかった自分が怖くなった。

拉致された横田めぐみさんのご両親の気持ちには、きっと言葉で表しても表しきれないと思う。大切な娘が拉致されたことも分からない。いまま二十年間どんな思いで生活してきたか。拉致されたらと分かり、どんな思いをしたか。他人の私でもこんなに悔しいのに、実の親である横田さんご夫妻の悲しみは計り知れない。めぐみさんに今の新しい日本を見せてあげた

いという父、横田滋さんの願いは叶うことな  
く帰らぬ人となってしまう。た。

もう時間が無い。残された時間はわずか。  
では、私達にできることは何か。そもそも、  
中学生の私にできることなんてあるのだろう  
か。調べてみると、色々な対策が行われてい  
た。しかし、私達が何かこれといった解決策  
を行うのは正直に言って難しい。

なので、自分自身が今できることを三つ考  
えてみた。一つ目は、自分の考えを深めるこ  
とだ。インターネットで調べたり、テレビで  
ある特集などを見てみたりすると、過去にど  
んな事があったのか、現在どのような状況な  
のか、知らなかったことを知ることができ  
る。二つ目は、多くの人に知ってもらうことだ。  
つめぐみレというアニメを見て私は、これを  
たくさんの人に見てもらいたいと思った。北  
朝鮮の拉致問題についてよく知らない友達に  
実際に教えた。すると、とてもびっくりして  
涙が出たと言っていた。また、まさに今行っ

ているように拉致問題についての作文を書いて  
みたり、レポートや新聞を作ってみてもい  
いと思う。これなら私達にもできる。三つ目  
は、あたり前の中に隠れている幸せを大切に  
することだ。家族と一緒に暮らすことのでき  
る幸せ、友達と笑い合えることのできる幸せ、  
好きなテレビを見ることのできる幸せ、温か  
いご飯を食べることのできる幸せ。たっくさん  
ある。それを意識して生活することは簡単で  
はないが、自然とありがたみと感ぜられる人  
に私はなりたい。

拉致によって自由を奪われた人の数は、一  
人や二人ではない。その家族も今もずくと苦  
しいながら必死に戦っている。もう二度と起  
きてはならない拉致という自由を奪う行為を  
忘れないで、今自分自身にできることをやっ  
ていこうと思う。